



日本茶に魅せられて

日本にはお茶にまつわる言葉やことわざがたくさんあります。例えば「日常茶飯事」とは日々のありふれた事柄を表す言葉で、

お茶が昔からとても身近な飲み物だったことがわかります。私もその日の気分によつて茶葉を

選ぶなど、普段から楽しんできました。

そんな折、京都で受けたお茶の講習でいただいた玉露と煎茶のおいしさに魅了され、もつとお茶について学びたいと思うようになりました。

調べてみたところ、日本茶の専門家を養成する資格講座が目にとまり、さっそく申し込みました。

軽い気持ちで始めたものの、歴史や産地、品種に関する知



見能林町
津山志津子さん

識、それと鑑定審査方法などの専門分野、さらに難解な専門用語の続出に四苦八苦。茶道で習った知識が多少なりとも通用するだろうという甘い考えはみじんに砕かれました。しかし、それでもめげずに勉強を続け、夫から苦手な化学の分野を教わったり、ティスティングに協力してもらったりとすることができました。

これまでは、サークルでお茶会を開催し、実際に設えや器、お菓子を自分なりにアレンジするのが一番の楽しみでした。現在は、日本茶

アドバイザーとして日本茶の魅力と日本茶文化のすばらしさを伝えられるようになり、大きな充実感とこの上ない満足感を感じています。

これからも勉強と経験を積んでいきます。おいしい日本茶でもてなすことが日常茶飯事となるように。

次は、才見町の坂東愛佳さんにお会いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

うすれゆく記憶の中に唯ひとつ消ゆることなし敗戦の日
真田美代志

三猿の訓えが過る井戸端会喉を押しくる言葉呑み込む
勢井 恒子

今も尚夢を追ひつつ吾が旅は過ぎ来し日々のドラマ背負ひて
近藤美智子

不器量は変わらなければど購いし赤いブラウス背筋が伸びる
森 ゆき子

稲匂う田んぼ田んぼの中の家八畳の間に風吹きぬける
新居 久子

朝なきな庭の草引く細腕に蚊の素早きが濁り血を吸う
福岡 孝子

ピョンと跳ね芋葉の露玉転がして朝日の光にあまがえる去る
井坂 絹子

俳句

阿南市俳句連合会選

リハビリの帰り急がず日永かな
植田真一郎

桜蕊降る静けさや神在す

淡島 春海

出会いあり別れも眺む桜かな

安部 和子

一服の畦に呼ばれて蓬餅

西岡 典子

鯉織屋根より高し十代目

平野 貞子

蓬餅吾が買い妻も買うて来し

大川 功

花冷えや並ぶ自転車真新し

表原 清美

ライオンの欠伸大きく山笑う

佐々木八千代

花仰ぐ移動スーパー止める場所

池内 明美

揚げ雲雀子も十八になりにけり

森 泰子

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

継ぐ家に親の借金乗っている

酒本 耕造

少量の酒が媚薬で今日も飲む

佐野 智子

何もかも笑いとばせる人がいい

原 公美子

どの服も美人がよいとそつぽ向く

野村 敏子

言い訳をしない男に格がある

持本 寿栄